

「あなたの優先順位は？」 10月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

昨今、親の身勝手に子どもの大切な人権が奪われてしまう出来事をよく聞きます。温かい言葉や態度によって励まされ、やる気を起こす子どもがいる一方で、何気ない言葉や態度で傷ついたりする子どももいます。

ある日の新聞に、子育て中の親のこんな相談が載っていました。「数か月前から4歳の子どもの言うことを聞かなくなり、ぶつたり蹴ったり、汚い言葉でののしったり、所構わず金切り声をあげて泣くので困っています」これに対して相談員は「子どもの『ねえ、ねえ』という話し掛けを、いい加減に扱っていないか。子どもは、せめて3度に1度でいいから、親が『なあに？』と言って、すぐにこちらを振り向いてくれることを願っている。それなのに、うるさが

ったり、おざりな対応をしたり『あとでね』と待たせておいて忘れてしまったり…。そんな自分の都合優先の繰り返しになっていないだろうか。であれば、子どもの怒りを買うのは当然である」と、子どもの気持ちをしつかり受け止めることが大事だと示唆していました。私たちも周りの人から大切にされると感じる時、自分の気持ちを受け止めてもらえる環境にあるのではないのでしょうか。年齢にかかわらず子どもも大人も同じなのです。

子どもは一人の人間として大切にされることで、お互いの人権を尊重し合おうとする感覚や意思が芽生え、人権感覚を備えた大人へと成長できるそうです。子どもにとって家庭は人権感覚を磨くおおもとの場であり、心休まる場所です。そして親は、何よりもなくてはならない人であり、

安心できる存在です。子どもと接するときには自分の都合優先の繰り返しにならないか、もう一度振り返ってみましょう。

